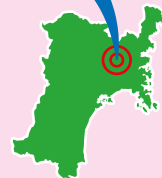


農の広場

登米市農業委員会だより

第46号
令和7年10月



遊びの中からの食育



キュウリ、ミニトマト、中玉トマト、パプリカ、ハツカダイコン、ミニ大根、サツマイモ、スイカ、メロン、玉ねぎ、ジャガイモなどなど・・・米山幼稚園の今年度の畑の作付けです。

9名の園児が「今年はどうする？何を植える？」と話し合っ
て決めました。先日、玉ねぎとジャガイモを収穫したところ、
小さなジャガイモも捨てないで大事に拾いました。自分たちで
植えた野菜を最後まで大切にする心の優しい子供たちに育っ
ています。

「家では食べない野菜を園では食べると保護者の方が驚い
ていた。」と園長先生が微笑んでお話しされました。

向かいの公民館の方々、派出所のお巡りさん、地域の皆様
のお手伝いのおかげで美味しい野菜が食べられると感謝してい
ました。

今年度で閉園になる米山幼稚園ですが、園児たちの心に宿
った野菜に対する優しさは消えることはないと思います。大人に
なっても灯をともしたいと願っています。

担当：鹿野 昭子 委員



～農地利用状況調査 が実施されました～

農地利用状況調査に先立ち7月11日に中田農村環境改善センターで、農地利用状況調査研修会が開催され、75人の調査員に委嘱状が交付されました。今年は新たに調査員の「災害補償保険」への加入の報告があり、災害（負傷など）があったときの補償について詳しく説明がありました。

また、近年熊の被害やスズメバチの被害が全国的にも多発していることによる安全対策についても協議が行われ、熊対策やスズメバチ対策の備品の準備を強く求められ、熊よけ鈴やジェットスプレーなどが用意されました。

農地利用状況調査は、7月から9月までの間で行われました。農地利用最適化推進委員が中心となって登米市全域の農地を調査しました。農地への立ち入りや現況の写真撮影を行う場合など、調査に対する皆様のご理解とご協力について、厚く御礼申し上げます。

今年は特に猛暑であったことや、荒廃した農地の調査については危険が伴うこともあり、熱中症対策も含め安全第一で調査にあたりました。

また、調査結果に伴い該当する方には「遊休農地の利用意向調査」に係る通知を予定しています。通知が届いた方はご確認の上、ご協力をお願いいたします。



代表して委嘱状を受け取る登米町の村上広幸さん



農地利用状況調査研修会



農地利用状況調査

空ハウス調査の実施

市内には、高齢に伴う離農や経営転換などで遊休化した施設園芸用ハウスが存在することから、新規就農者等の初期投資を軽減することを目的とし、農業委員会では農地利用最適化推進委員による空きハウス調査を実施しています。

とりまとめた調査結果を農業委員・農地利用最適化推進委員が情報共有し、相談などに応じております。

担当：佐藤 久順 委員



空ハウス



タブレット研修会

農地利用状況調査研修会の後にタブレット研修会が開催され、デジタル化に向けた取り組みが当市でも着々と進んでいます。業務効率化やコスト削減、リアルタイムでのデータ活用などタブレットを使いこなせるよう、またDX時代に取り残されないよう真剣に取り組んでいました。

担当：高橋 健之 委員

農地利用最適化推進委員を募集

【募集人員】1人

【役割と業務】農地集積・集約化、遊休農地発生防止の働きかけ、農地パトロール、会議への出席など

【担当区域】登米市迫町新田の区域

【任期】委嘱の日から令和8年7月23日（木）まで

【報酬】月額4万6千円

【申込資格】農地などの利用最適化推進に熱意と識見を持ち、担当区域内で農地等の最適化推進の活動ができる人

【申込方法】推薦（団体または農業者等3人以上の連名による推薦）または自ら応募。規定様式に記入し、必要書類を添えて提出してください。

【申込期間】9月22日（月）～10月21日（火）

【申し込み・問い合わせ】農業委員会事務局（農政総務係）

☎0220-34-2317 詳細は市農業委員会ホームページをご覧ください。



農業者年金

長い老後を最後までサポート

全額社会保険料控除で大きな節税効果！

少子高齢時代に強い積立方式・確定拠出型の年金です。

農業者年金の内容やご相談については、最寄りの農業委員会かJA、または農業者年金基金にお問い合わせください。

若いうちから！
女性も！
節税対策に！

購読しませんか？



申し込み・問い合わせ
農業委員会事務局 ☎0220-34-2317

全国農業新聞！
金曜日発行
農業委員会の
ネットワークが
発行する週刊の
農業専門誌です。
申し込みは農業
委員会まで

出会いと自然の中で子育て

迫町北方の木村政裕さんは就農2年目、現在3世代家族でピーマンを主に季節の野菜作りに挑戦中です。仙台の農業法人で野菜栽培を経験、故郷の自然の中で子育てと野菜栽培をしたいと妻に相談したところ、大賛成で里帰りが実現しました。

就農の際、父から勧められ、中高生の農業体験ファームステイに応募し、昨年今年と県内外から10校ほど受け入れました。都会育ちの子が自分の食べている野菜がどのように作られているか、種まきや草取り、虫や病気との戦い、収穫の喜び、食事の時にその経験が思い出されれば嬉しい。子供たちも中高生のお兄ちゃん、お姉ちゃんに会えることをとても楽しみにしているそうです。野菜作りと子育てそしてファームステイでの出会いを楽しみに家族とともに頑張りたいと語ってくれました。

担当：三塚 芳毅 委員



きむら まさひろ
木村 政裕さんご家族

空ハウスを利用して規模拡大



いとう りょう
伊藤 涼さん

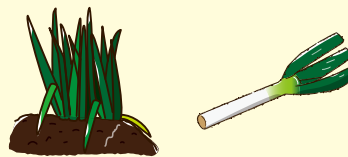
中田町石森の伊藤涼さんは、涌谷町内で2年間ネギ栽培の研修で実績を積み、昨年就農しました。

初めは、土地の条件や栽培環境等わからないことも多く、改良普及センターや農協、先輩農家の指導を受け、今では経験を生かし、良いものを生産できるようになりました。

今回、面積を広げ規模を拡大したいとの相談があり、種苗用の空ハウス1棟を紹介し、利用することになりました。

これから2度目の種まき準備を行い、将来はネギ栽培を2ヘクタールに拡大したいと、夢を語ってくれました。

担当：門馬 一郎 委員



編集後記

今年の夏のお決まりの挨拶は「暑いですね」の一言でした。人の力では変えられない天気。毎年のように右往左往させられています。

米山幼稚園評議員の私は、園児たちの「こんにちは」の変わらない笑顔での挨拶に元気をもらっています。鬼ごっこをした後、園児たちがまあるく輪になって座っていました。今日の鬼ごっここの反省と次に活かす作戦をたてていました。園児たちの話し合いの場です。

大人の話し合いの場においても園児たちに負けないように作戦を練らないといけません。

これからも登米市の農業を見守り続けていきたいと思います。

編集委員

委員長 五十嵐 幸喜
副委員長 浅野 和宏
委員 三塚 芳毅
佐藤 久順
小野 鉄子
高橋 健之
鹿野 昭子
門馬 一郎

鹿野 昭子 委員

新農地利用最適化推進委員紹介

欠員となっていた農地利用最適化推進委員が決定しました。
(任期：令和8年7月23日まで)



第8地区(東和町米川の区域)

おい かわ はや と
及川 勇人